

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：防災費 目：消防指導費

事業名 **【新】ありがとね！消防団・水防団応援事業所拡大キャンペーン事業費**

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

危機管理部 消防課 企画係 電話番号：058-272-1111(内2882)

E-mail：c11193@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 8,100 千円 (前年度予算額： 0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	8,100	5,000	0	0	0	0	0	0	3,100
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

地域のお店や企業等が消防団員等にサービスを提供することにより消防団等を応援する「ありがとね！消防団・水防団応援事業所制度」を平成26年度から実施している。

消防庁が令和3年8月に公表した「消防団員の処遇等に関する検討会」最終報告書において、消防団のイメージをより良いものとし、社会全体で消防団を応援していこうという雰囲気を作っていくことが肝要であるとされ、消防団応援の店等の取組みを引き続き行いつつ、消防団のイメージの向上を図っていく広報をさらに充実させるべきであるとされた。

現在の応援事業所数は、約1,000となっており、近年、応援事業所数の増加があまり見られない。団員へのアンケートでは、応援事業所が少ない、日常的に行くお店でサービスを受けられるようにしてほしいといった声が多くある。

そこで、「ありがとね！消防団・水防団応援事業所拡大キャンペーン」を実施し、応援事業所の登録を増やすことで、当制度の実効性を高めるとともに、地域における消防団を応援する機運をより醸成していく。また、団員や団員のご家族が普段から地域の応援を受けていると感じられるようにすることで団員のやりがい向上等につなげていく。

(2) 事業内容

- ア 店舗訪問等による応援事業所の獲得
- イ 地域情報誌等への新規応援事業所の紹介記事の掲載
- ウ SNSの発信
- エ 団員向けリーフレットの作成
- オ ギふの消防団ポータルサイトへの応援事業所のインタビュー記事の掲載 など

(3) 県負担・補助率の考え方
消防団の力向上モデル事業を活用

(4) 類似事業の有無
無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	32	プロポーザル審査委員謝金
旅費	11	プロポーザル審査委員旅費
委託料	8,057	業務実施に係る委託料
合計	8,100	

決定額の考え方

4 参 考 事 項

- (1) 各種計画での位置づけ
「清流の国ぎふ」創生総合戦略（2023～2027年度）
2 健やかで安らかな地域づくり
(2) 安らかに暮らせる地域
⑥災害と危機事案に強い岐阜県づくり
- (2) 国・他県の状況
当県の制度と同様の制度を実施している県 11県で実施（当県除く）
- (3) 後年度の財政負担
応援事業所数が目標数となるまで当事業を継続実施する。
- (4) 事業主体及びその妥当性
県下全域を対象に実施する事業であり、県が事業主体となることは妥当

事業評価調査書（県単独補助金除く）

■ 新規要求事業

□ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

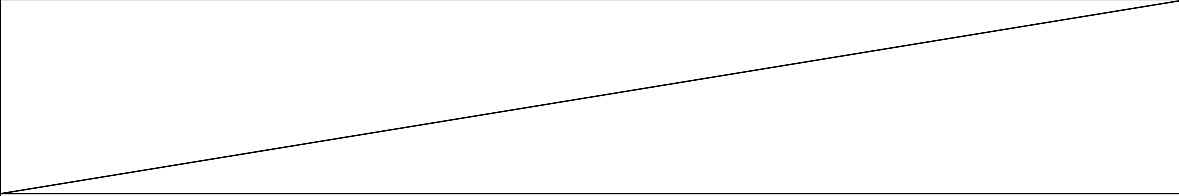
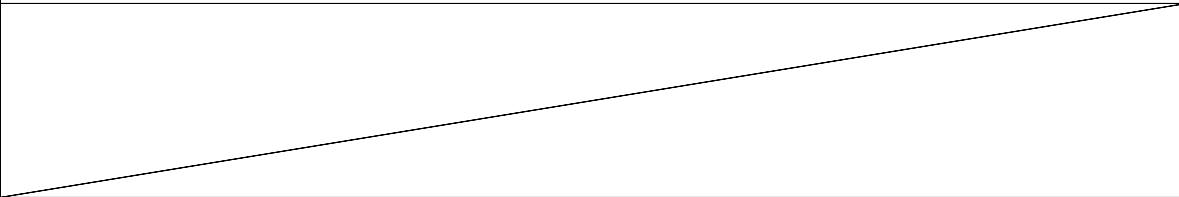
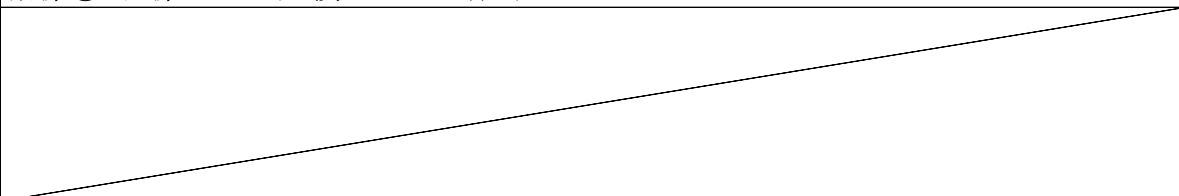
応援事業所数の増加により当制度の実効性を高めるとともに、社会全体で消防団を応援する機運を醸成する。また、団員や団員のご家族が普段から地域の応援を受けていると感じられるようにすることで団員のやりがい向上等につなげていく。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R7)	R8年度 目標	R9年度 目標	R10年度 目標	終期目標 (R10)	達成率
①応援事業所数	1,015	1,345	1,675	2,000	2,000	51%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	 <p>指標① 目標：— 実績：— 達成率：—</p>
令和5年度	 <p>指標① 目標：— 実績：— 達成率：—</p>
令和6年度	 <p>指標① 目標：— 実績：— 達成率：—</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価)	3 団員アンケートでは、「応援事業所の数が少ない」、「地域の偏りなく応援事業所を増やしてほしい」、「日常的に使うお店でサービスを受けられるようにしてほしい」などの声が多くあり、団員が十分にメリットを感じられるよう応援事業所の数を増やしていく必要がある。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価)	
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価)	

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 近年、応援事業所数の増加があまり見られず、広報等での制度周知では限界がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 応援事業所数が目標数となるまで、当事業を継続実施する。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	【〇〇課】